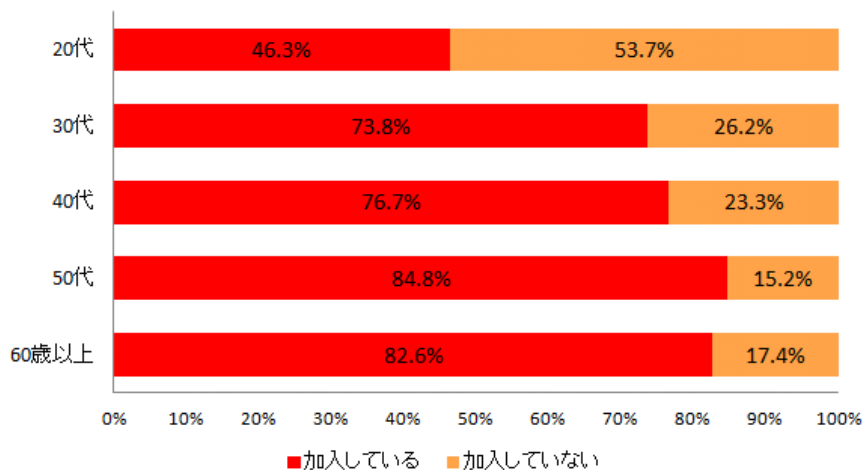


価格.com、「生命保険」に関する調査結果を発表

加入率は約8割、若年層ほど低い傾向。加入中の生命保険は終身タイプがトップ
将来への不安？20代の加入目的「老後保障」「貯蓄」が他世代よりも高い結果に
補償内容への理解度、十分理解できていない加入者が53.4%にのぼる

カカクコムが運営する購買支援サイト「価格.com(カカクドットコム)」：<http://kakaku.com/>」では、「生命保険」に関するアンケート調査を実施しました。生命保険の加入状況を中心に、保障内容への理解度や情報収集の方法などに関する調査結果を一部抜粋してお届けします。

生命保険の加入率：約8割が加入も、前回調査時より1割減少。若年層ほど加入率は低い傾向に
 生命保険の加入率は「加入している」が79.7%という結果に。年代別では若年層ほど加入率が低い傾向が見られます。2009年に実施した生命保険に関する調査では、全体の加入率が約9割で、年代別でも高い水準となっていました。今回の結果を2009年調査と比較すると、20代で-18.9ポイント、30代で-15.8ポイント、40代で-16.7ポイントと、大幅な減少が見られました。若年層を中心として、全体的に生命保険の加入率が低下傾向にあるといえそうです。

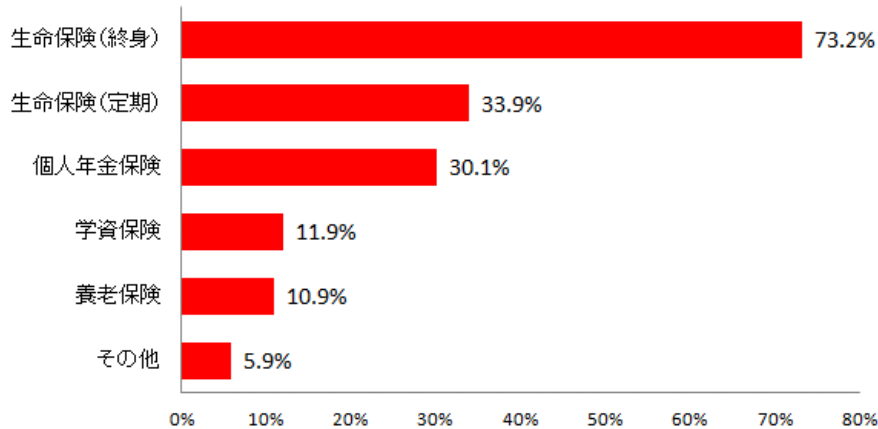
【図1 生命保険の加入率】**加入している生命保険の種類：「生命保険（終身）」が7割を占める**

次に、加入している生命保険の種類を聞きました。全体では「生命保険（終身）」が73.2%とダントツで、「生命保険（定期）」、「個人年金保険」と続きました。いずれの年代でも「生命保険（終身）」の加入率が高いものの、そのほかの種類では年代別に違いが見受けられます。

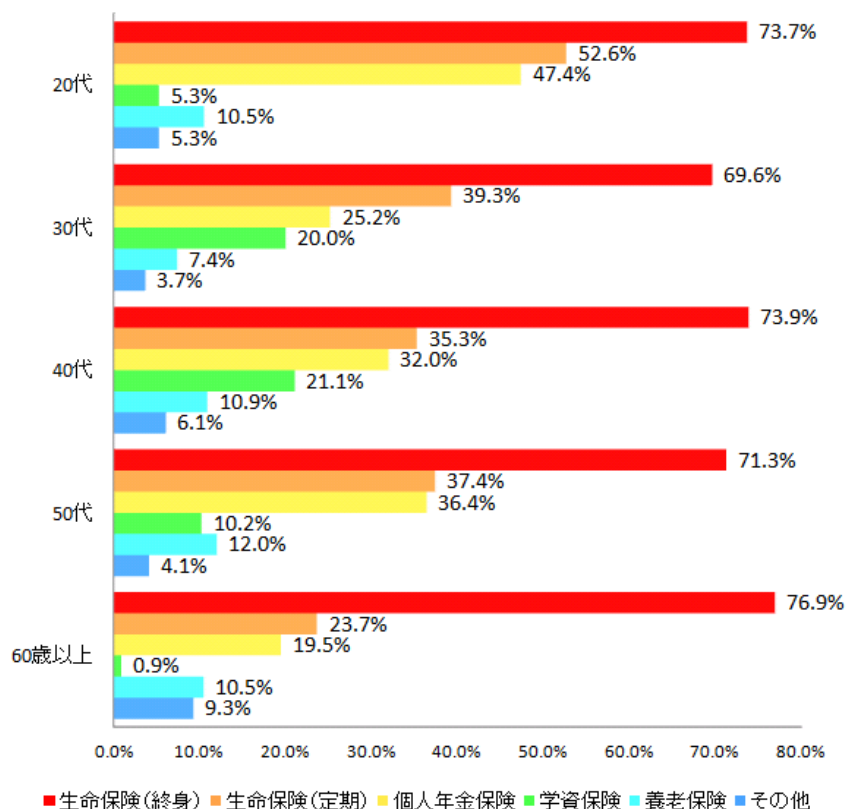
まず20代では「生命保険（定期）」が52.6%と、どの年代よりも高い結果となりました。ライフスタイルの変化による見直しも想定し、定期型を選んでいるようです。老後に受け取る年金などへの不安からか、「個人年金保険」もほかの年代より高い47.7%となりました。

子育て真っ盛りの世代である30～40代では、高校や大学など、将来的な子どもの進学を見据えて「学資保険」に加入する人も多いようです。

【図2-1 加入している生命保険（複数回答）】



【図2-2 加入している生命保険（年代別）】

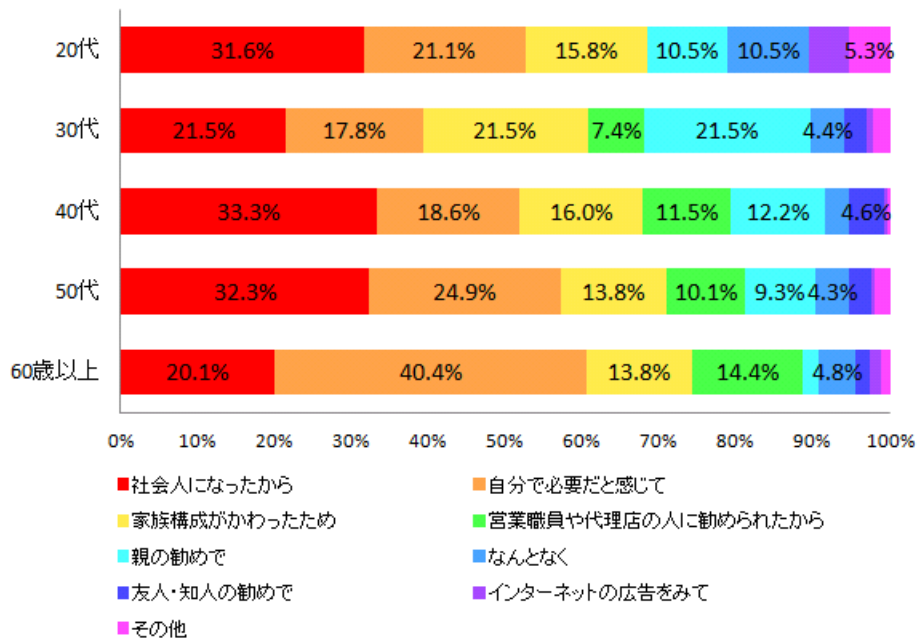


生命保険に加入したきっかけ：「社会人になったから」、「自分で必要だと感じて」が多い結果
 生命保険に加入したきっかけについては、「社会人になったから」（28.6%）「自分で必要だと感じて」（26.1%）がそれぞれ全体の3割近くを占めました。40～50代でも3割超が「社会人になったから（26.1%）」が多く、社会人になって間もない時期に加入した保険を継続している人が多いこともうかがえます。

30代では「家族構成が変わったため」（21.5%）との回答も目立ち、結婚や子どもの誕生により、

万が一に備えて生命保険に加入する人が多いようです。40代以降は、年齢が上がるほど「自分で必要だと感じて」の割合が高くなっています。

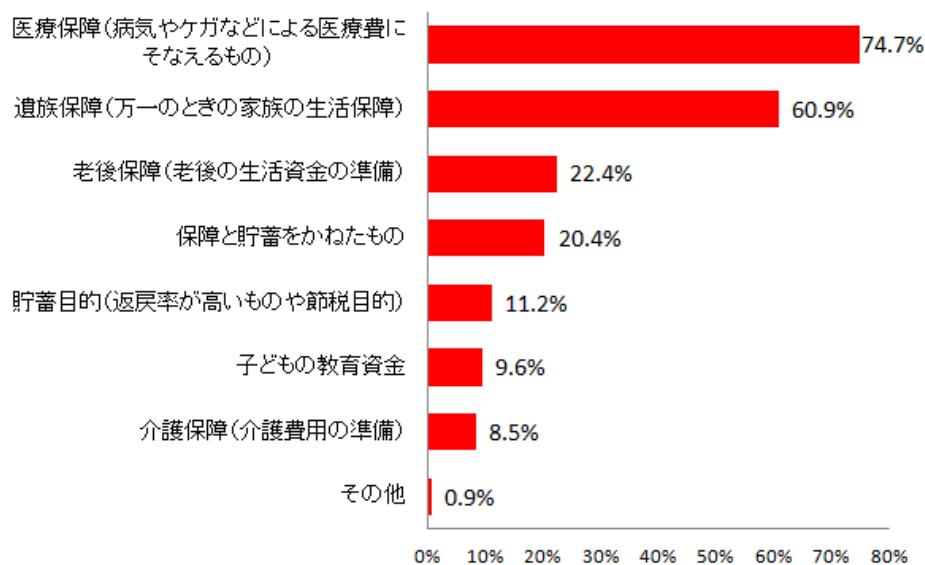
【図3 生命保険に加入したきっかけ（年代別）】



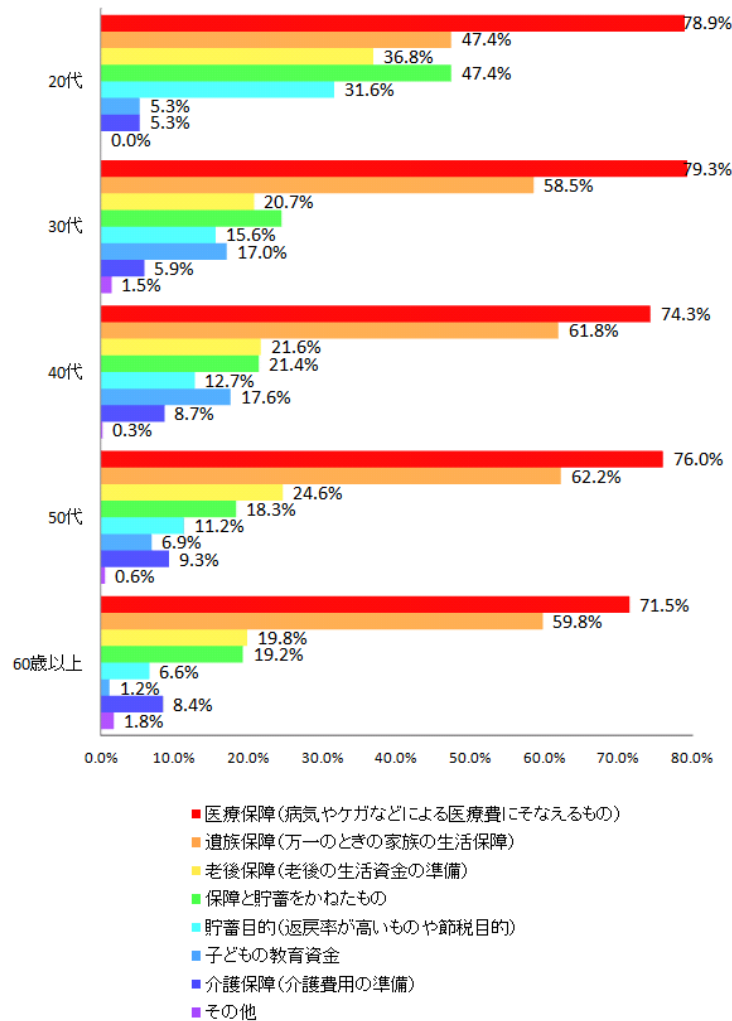
生命保険の加入目的：「医療保障」（74.7%）と「遺族保障」（60.9%）がメイン

生命保険の加入目的を聞いたところ、年代にかかわらず「医療保障」（74.7%）と「遺族保障」（60.9%）を挙げる声が多数を占めました。特筆すべき点は、20代で「老後保障」「保障と貯蓄をかねたもの」と答えた人の割合がほかの世代よりも高いことです。【図2-2 加入している生命保険（年代別）】の結果と同じく、若い世代が持つ将来に対する不安の大きさが垣間見える結果となりました。

【図4-1 生命保険に加入している目的（複数回答）】



【図4-2 生命保険に加入している目的（年代別）】

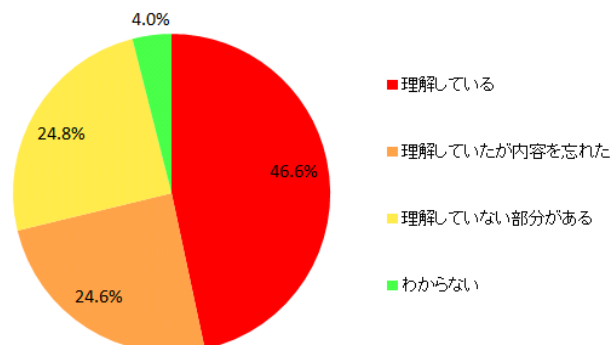


加入している生命保険の保障内容：半数以上が把握できていない状況

加入している生命保険の保障内容を理解しているかどうかを聞いたところ、半数以上がきちんと理解していないという結果になりました。なお、フリーアンサーでは「どんなケースで保険金が支払われるか、まったくわからない」という回答も見られました。

なお、今の保障内容で十分だと感じるか、という質問では「どちらともいえない」（40.9%）が、「十分」「ほぼ十分」の合計（40.4%）とほぼ同じ割合に。保障内容への理解が不足していたり、病気やケガになった場合にかかる費用などが見通しにくい、という現状があるようです。

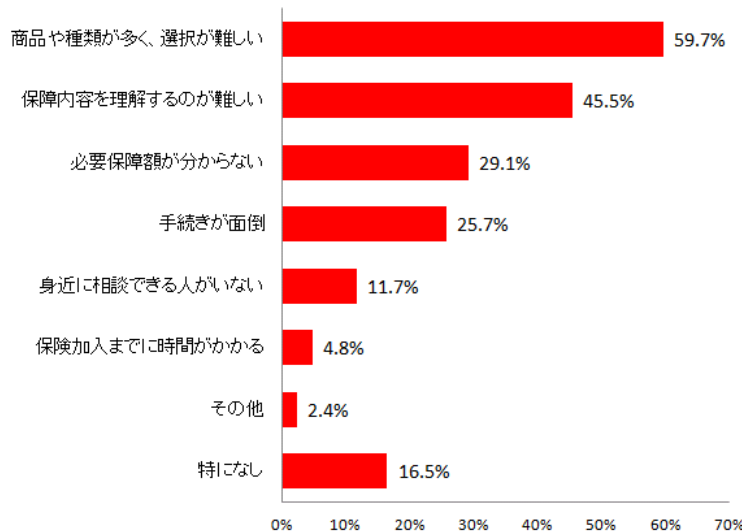
【図5 加入している生命保険の保障内容を理解しているかどうか】



生命保険選びで大変だと思うこと：わかりにくさ、選びにくさが大半を占める

生命保険選びで大変だと思うことを挙げてもらったところ、「商品や種類が多く、選択が難しい」(59.7%)、「保障内容を理解するのが難しい」(45.5%)という意見が多数を占めました。保険会社は幅広いニーズや様々な事態を想定して、多様な保険商品を投入しており、組み合わせられる特約もたくさんあります。こうした選択肢が無数にあることが、かえって保険選びを難しくし、生命保険の加入率低下につながっているのかもしれない。

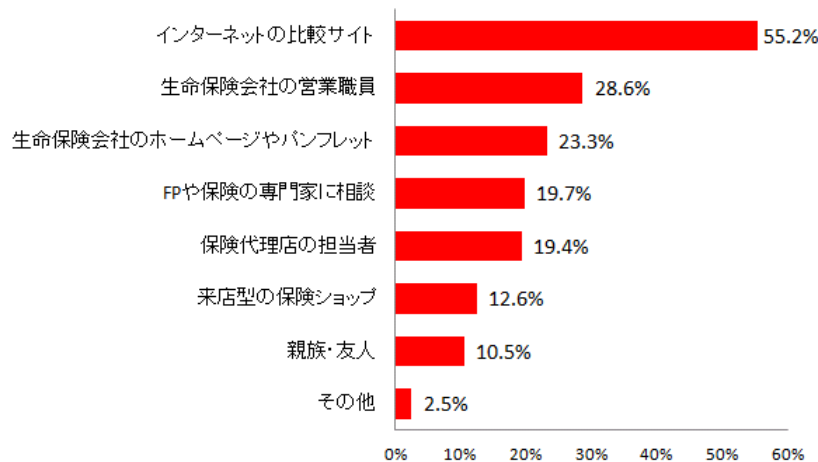
【図6 生命保険選びで大変だと思うこと（複数回答）】



今後の加入について：インターネット上での比較と申込みに期待

生命保険に加入したり、見直しをしたりする際の加入方法や情報の入手先については「インターネット」がトップに。また、回答者の6割近くが複数の保険会社や商品を「比較検討したい」としています。今後ますます、気軽に情報収集できるインターネットの役割が重要になっていくでしょう。

【図7 今後生命保険の加入や見直しをするとき、どのように情報入手したいですか？（複数回答）】



【まとめ】

生命保険の加入率は、全体のおよそ8割。年代別では若年層ほど加入率が低い結果となりました。2009年の調査では加入率が約9割だったことを考えると、若年層を中心に全体として加入率は低

下傾向にあるといえそうです。

加入している生命保険の種類は、全体では「生命保険（終身）」がダントツで、「生命保険（定期）」、「個人年金保険」と続きました。しかし20代では「個人年金保険」の割合がほかの年代よりも高く、生命保険に加入している目的においても、「老後保障」「保障と貯蓄をかねたもの」と答えた方の割合が高かったことから、若い世代の将来に対する不安がうかがえます。

加入中の生命保険の保障内容を理解しているかどうかでは、半数以上がきちんと理解していないという結果になりました。次いで生命保険選びで大変だと思いを挙げてもらうと、「商品や種類が多く、選択が難しい」、「保障内容を理解するのが難しい」とする意見が多数を占める結果に。保険内容のわかりにくさが、生命保険の加入率低下につながっているのかもしれない。

今後、生命保険に加入したり見直しをしたりする際に、どのように情報を入手したいかという質問に対しては、「インターネット」が頭ひとつ抜けた結果になりました。保険選びにおいても引き続き、気軽に情報収集できるインターネットの役割がますます重要になっていくでしょう。

【調査パネル】

調査エリア : 全国 調査対象 : 価格.comID 登録ユーザー

調査方法 : 価格.com サイトでの Web アンケート調査

回答者数 : 1,748 人

調査期間 : 2017 年 1 月 12 日～2017 年 1 月 18 日

調査実施機関 : 株式会社カカコム

※四捨五入による端数処理のため合計が 100%にならないことがあります。

▼アンケート結果、および過去の調査アーカイブはこちらのページでもご覧いただけます

<http://kakaku.com/research/backnumber.html>

▼関連カテゴリ・メディア

「価格.com 保険」ではより多くの方に “満足いく保険選び”をしていただけるよう、保険の比較・一括見積もり・人気保険ランキング・保険の選び方など、さまざまな情報を提供しています。専門コンサルタントによる保険の見直し相談も無料でおこなっています。

■価格.com 保険

<http://hoken.kakaku.com/insurance/>

■価格.com 保険 保険無料相談

<http://hoken.kakaku.com/insurance/consultation/>

【価格.com サイトデータ】（2016 年 12月現在）

月間利用者数約 5,133 万人、月間ページビュー約 8 億 3,819 万 PV

<利用者内訳> PC : 2,318 万人 スマートフォン : 2,796 万人

データの引用・転載時のクレジット表記について

本調査結果の引用・転載の際は、必ずクレジットを明記くださいますようお願い申し上げます。

クレジット表示例

- ・「価格.com」調べ
- ・購買支援サイト「価格.com」が実施した調査によると…